学校番号	3032B

令和８年度　外国語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
外国語	(学)異文化理解 B	1	２・３年 後期	

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語に親しみを持ち、様々な課題に積極的に取り組んで学習する姿勢が求められます。外国語の習得には授業時間だけでなく日常的な意識と努力がとても重要です。映画や音楽を題材として、英語らしい表現を状況の推移の中で確認します。英語学習の楽しさを見出せるように取り組みましょう。

2 学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

【第１学年】

領域	聞くこと	読むこと	話すこと （やり取り）	話すこと （発表）	書くこと
学習到達目標	・基本的な語彙と表現を使い、決まった表現で話された事柄についての概要を理解することができる。 ・授業内の指示に対して適切な反応ができる。 ・長い質問でも適切に聞きとろうとする。	・基本的な語彙と表現を使用した日常生活の身近な英語の意味を理解することができる。 ・内容の要点を示す語句や文を意識して読むことができる。 ・２００語程度の英文の概要を理解しようとする。	・基本的な語彙と表現に関して、日常生活に用いられる身近な単語に加えてよくつかわれる単語を発音できる。 ・簡単なやり取りに適切に対応ができる。 ・多様な事柄についてやり取りの中で簡単な説明をしようとする。	・基本的な語彙と表現を使い、日常生活や身近な話題に関するスピーチができる。 ・簡単な英語を使って自分の興味・関心を表現できる。 ・多様な事柄について状況に応じた簡単な意見や印象を話そうとする。	・基本的な語彙と表現に関して、日常生活に用いられる単語を正確に書くことができ、自らの書く文章に使用することができる。 ・多様な事柄について短い文章で表現できる。 ・多様な事柄について短い文章を書こうとする。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	音声、句読法、文法事項、語彙、慣用表現など、英語の決まりや特徴を理解習得して、これまでの学習成果を基本として、復習を交えつつ、実際の場面に即して適切に運用する。	映画のテーマに関して、与えられた情報・事柄の要点や話し手の意図を理解し、自分の考えや感想を、英語で適切に表現することができる。	映画のテーマに関して、文化的背景を理解し、自分の意見や感想を交え、事柄の要点を理解し、自ら主体的に発話したり、対話したり、文章を作成することができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（領域）ごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	課 “題材名”	領域	評価規準	評価方法
後期	映画	聞くこと	a: 作品中の会話を聞き取ることができる。 b: 作品中の英語を聞き、場面を推測することができる。 c: 作品中の英語を聞き取ろうとする。	リスニングテスト
		読むこと	a: 作品中の英語字幕を場面によっては理解できる。 b: 場面について考え、英語字幕を読みとることができる。 C: 音声を聞き、英語字幕を読もうとする。	
		話すこと（やり取り）	a: 作品中のやり取りを読むことができる。 b: 作品中のやりとりを参考に、英語でのやり取りができる。 c: 英語の発音に近い発音になるよう取り組む。	スピーキングテスト
		書くこと	a: 感想や意見を英語で書くことができる。 b: 作品の紹介を英語で書くことができる。 c: 作品についての意見の発表原稿をつくる	成果物
	ALT との会話活動	聞くこと	a: 他の生徒の発表を集中して聞くことができる。 b: 他の生徒の発表を聞き、評価・分析できる。 c: 他の生徒の発表を聞き、メモをとることができる。	
		読むこと	a: テーマについて読みとることができる。 b: テーマに考え読みとることができる。 C: テーマに対する自分の意見を考えながら読むことができる。	
		話すこと（やり取り）	a: 要点を意識した発表ができる。 b: 要点を意識し、伝わるように発表することができる。 c: 伝えようと意識して発表している。	パフォーマンステスト
		書くこと	a: 発表のための原稿を作成する。 b: 他の生徒の発表に対する感想を書くことができる。 c: 発表原稿を推敲し、成果物として仕上げる。	成果物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度